

光学医療診療部

1 構 成 員

	平成 26 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	1 人	(1 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	4 人	
合計	6 人	

2 教員の異動状況

今野 弘之（部長・教授）（平成 18 年 1 月 15 日～平成 26 年 3 月 31 日）

大澤 恵（副部長・講師）（平成 24 年 1 月 1 日～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	13.63	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Furuta T, Sugimoto M, Kodaira C, Nishino M, Yamade M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Watanabe H, Umemura K. Sitafloxacin-based third-line rescue regimens for *Helicobacter pylori* infection in Japan. *J Gastroenterol Hepatol*. 2014 Mar;29(3):487-93. (IF: 3.33)
2. Furuta T, Sugimoto M, Yamade M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Watanabe H, Umemura K. Effect of dosing schemes of amoxicillin on eradication rates of *Helicobacter pylori* with amoxicillin-based triple therapy. *J Clin Pharmacol*. 2014 Mar;54(3):258-66. (IF: 2.84)
3. Sahara S, Sugimoto M, Uotani T, Ichikawa H, Yamade M, Iwaizumi M, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Umemura K, Miyajima H, Furuta T. Twice-daily dosing of esomeprazole effectively inhibits acid secretion in CYP2C19 rapid metabolisers compared with twice-daily omeprazole, rabeprazole or lansoprazole. *Aliment Pharmacol Ther*. 2013 Nov;38(9):1129-37. (IF: 4.55)
4. Sugimoto M, Uotani T, Nishino M, Yamade M, Sahara S, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Umemura K, Watanabe H, Miyajima H, Furuta T. Antiplatelet drugs are a risk factor for esophageal mucosal injury. *Digestion*. 2013;87(4):281-9. (IF: 1.94)
5. Furuta T, Sugimoto M, Yamade M, Uotani T, Sahara S, Ichikawa H, Kagami T, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Watanabe H, Umemura K. Eradication of *H. pylori* infection in patients allergic to penicillin using triple therapy with a PPI, metronidazole and sitafloxacin. *Intern Med*. 2014;53(6):571-5. (IF: 0.97)

インパクトファクターの小計

[13.63]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

（２－１）論文形式のプロシーディングズ

（２－２）レター

（３）総説

（４）著書

（５）症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 25 年度
特許取得数（出願中含む）	1 件

1. 発明名称「内視鏡用フードおよび同内視鏡用フードを備えた内視鏡」、特願 2013-090155、2013 年 4 月 23 日

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 25 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働省科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	18 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

(2) 国内学会の開催・参加

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

今野弘之：日本消化器外科学会理事(専門医制度担当)、外科関連学会協議会代表委員、外科

関連専門医制度委員会代表委員、NCD 専門医制度委員、学会機関誌編集委員

日本胃癌学会理事長、理事、評議員

日本がん転移学会理事、評議員

日本病態プロテオーム学会監事

がん集学的治療研究財団理事

日本がん治療認定医機構理事、日本専門医制評価・認定機構協議委員

日本外科学会評議員、英文誌編集委員、静岡県安全管理責任者

日本癌治療学会評議員、総務委員会委員

日本癌学会評議員

日本消化器病学会財団評議員、学会評議員、学会機関誌編集委員、東海支部幹事

日本消化器内視鏡学会評議員

日本外科系連合学会評議員、Fellow、Fellow 会員資格審査委員会委員、国際・渉

外委員会委員

日本臨床外科学会評議員

日本食道学会評議員

日本消化器癌発生学会評議員、会則委員長

日本癌病態治療研究会世話人

大澤 恵：日本消化器病学会、学会評議員、東海支部評議員

日本消化器内視鏡学会東海支部評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1 件	1 件

（1）国内の英文雑誌等の編集

今野 弘之 Surgery Today (日本外科学会) Editorial Board IF 有

（2）外国の学術雑誌の編集

大澤 恵 World Journal of Gastroenterology (中国) Editorial Board PubMed 登録有 IF 有

（3）国内外の英文雑誌のレフリー

大澤 恵 10 回 World Journal of Gastroenterology (中国)

大澤 恵 1 回 Journal of Gastroenterology (日本)

大澤 恵 1 回 Journal of Neuroimmunol (USA)

大澤 恵 1 回 International Journal of Radiation Oncology (USA)

大澤 恵 1 回 Journal of Molecular Histology (Netherlands)

9 共同研究の実施状況

	平成 25 年度
（1）国際共同研究	0 件
（2）国内共同研究	0 件
（3）学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 25 年度
産学共同研究	2 件

- 『内視鏡用フードおよび同内視鏡用フードを備えた内視鏡の開発』ショーダテクトロン株式会社との共同開発
- 『着脱可能内視鏡処置用糸付クリップの開発』平電機株式会社との共同開発

11 受 賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

- 早期食道癌に対する安全かつ確実な粘膜下層剥離術(ESD)の手技の確立

早期食道癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)は、狭い空間の中で薄い食道壁を処置する難易度の高い手技である。当院では大腸用に開発された SB ナイフ Jr を用い、糸付クリップなどを併用し

た独自の手技で施行している。また、2012 年ガイドラインによる適応拡大により 2/3 周性以上の病変も積極的に治療し、術後食道狭窄予防のためステロイド局注などを実施し、その臨床成績を検討して報告している。

2. 消化管癌に対する光線力学療法のさらなる可能性

これまで食道癌および胃癌の表在癌に対して、フォトフリンを用いた光線力学療法(PDT)を施行し、良好な成績を得てきた。本治療の有用性をさらに高めるための光感受性物質の改良や、レーザー照射法の改善などを検討している。

3. 石英ガラスを用いて接触視野確保を可能とした新型内視鏡先端キャップの開発

消化管内視鏡は近年、治療内視鏡での役割も増している。治療処置においては対象物に接触すると視野が得られない、いわゆる“赤玉現象”を回避するため、これまで筒型先端キャップが多く開発されて臨床現場で使用されている。しかし、このデバイスは筒内に血液や残渣が混入する場合に容易に視野が障害される。我々は筒型先端キャップの欠点を改善することを目的に、対象物と CCD カメラの間の空間を透明度の高い石英ガラスで確保した新たな内視鏡先端デバイスを開発してその有用性を検討している（特願 2013-090155）。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

15 新聞、雑誌等による報道

1. 大澤 恵『内視鏡先端キャップ開発』、静岡新聞、2013 年 8 月 14 日